

生明俊雄先生 講演会

「ヒット曲はどのように作られてきたのか
—— レコード産業における音楽制作 &
マーケティングのあり方とその変遷 ——」

日時：2017 年 5 月 18 日（木）18:40~20:00

会場：法政大学市ヶ谷キャンパス

（ボアソナードタワー3階 0300 教室

（JR/地下鉄 飯田橋駅ないし市ヶ谷駅から徒歩 10 分）

対象：法政大学学生、一般

（どなたでもご参加いただけます 事前申込不要）

お問い合わせ先：法政大学国際文化学部

学部事務：03-3264-9345

jkokusai@hosei.ac.jp



（↑ 勁草書房 HP より借用）
<http://www.keisoshobo.co.jp/book/b26466.html>

「誰もが知る名曲」の背景にあったものとは？ —

20 世紀、私たちの日常には、レコード会社が映画／テレビ産業とタッグを組むことで生まれる、「CM タイアップ曲」や「ドラマの主題歌」のようなヒットソングが数多くありました。本講演会では、アーティストと聴衆との間に存在する「仲介者」としての音楽産業に

焦点をあて、日本の「誰もが知る名曲」を例に、日本の音楽産業と音楽制作現場の変遷をたどっていきます。You Tuber の活躍する 21 世紀、音楽産業の未来とは？！

☆講師：生明俊雄先生

（略歴）1940 年生。早稲田大学政治経済学部卒業。卒業後はビクターエンタテインメント株式会社勤務、同社で洋楽部長、映像制作部長、ビクタースタジオ長、メディアネットワーク本部長などを歴任。東京大学大学院人文社会系研究科博士前期課程、博士後期課程修了、博士（2016 年、東京藝術大学）。東京工業大学、富山大学、神田外語大学、関西大学大学院講師を経て、広島経済大学経済学部メディアビジネス学科教授（2011 年 退任）。専門はポピュラー音楽研究、音楽産業論、文化社会学、メディア論。著作として『ポピュラー音楽は誰が作るのか——音楽産業の政治学』（勁草書房、2004 年・単著）、『メディア産業論』（有斐閣、2006 年・共著）、『二十世紀日本レコード産業史——グローバル企業の進攻と市場の発展』（勁草書房、2016 年・単著）など。ほかに論文多数。研究活動に加えて音楽プロデューサーとして「タンゴ」の分野に取り組む。「ピアソラ・アンソロジー」など多くの CD アルバムを企画し、ライナーノーツを執筆。